

## 活動報告5

# 胆振・体験から学ぶ推進協議会／苫小牧市

報告者 上田融さん

私は幼稚園に勤務していますが、園や保護者から園児向けのスケート指導をしてほしいと相談を受けたのをきっかけに、知り合いの教員や公務員、民間の方に声をかけて休日ボランティアのためにこの協議会を設立しました。

活動の一環として、苫小牧市の学校法人原学園ひかりの国幼稚園と協定を結んで、付属する森林の整備をお手伝いすることになりました。私たちは森林の専門家ではありませんが、おかげでかえって「森林の多面的機能」を引き出すことができたのではないかと考えています。

ふだんは放課後に指導活動をしており、毎月1回、森を手入れする日を決めています。子どもを連れて森に入ることを続けるうち、お母さんお父さんたちも興味を持って手伝ってくれるようになり、ゴミ拾いと山菜採りを同時に楽しんでいます。

子どもたちの活動エリアに風倒木が生じても、これまで幼稚園では自力ではどうすることもできず、業者を呼ぶしかありませんでした。作業中は立ち入り禁止になっていました。しかしアイヌの伝承では「風倒木はカムイの世界からの贈り物」です。子どもたちにもそういう哲学を伝えたいと考え、私たちが間に入ることにしました。危険な倒木を整理し、安心して遊べるようにしました。ピンチがチャンスに変わったと思います。

作業を園児も見学します。ツタを除伐するのに樹上伐採を行なって、作業員を「忍者」と紹介したり。幼稚園との協働ならではの光景だと思います。

伐採木の一部は馬を使って搬出しています。保護者の方たちも初めて触れる文化ですが、実に理にかなっていて、少しずつ関心を持ってもらえるようになってきていると思います。

2月下旬の週末に、卒園生や保護者に呼びかけて小さなイベントを開きました。苫小牧出身のネイチャークラフト作家をお招きして、工作の講師を務めてもらいました。

「馬搬」という言葉はすっかり定着しました。取り組みが評価されて幼稚園の入園希望者が増えているようですし、刺激を受けた保護者同士が工芸関連の新組織を設立するといった動きも出ています。地元だけでなく、都市部の人との交流も生まれてきました。

この活動は、公共事業でもない、経済活動でもない、「様々な立場による相互扶助」だと思います。交付金に頼り切らずに自分たちで「縁」をつなげて継続したいと考えています。

